

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック  
京都御苑の魅力を発信

# 京都御苑



## NEWS

Kyoto Gyoen  
National Garden  
News

summer

夏

第134号

2017.6.1

京都御苑ニュース

### CONTENTS

- ▶ 生物多様性を支える京都御苑
- ▶ 「きのこ」を通して自然を観る
- ▶ 苑内利用者の声
- ▶ 学生コラム —同志社女子大学—
- ▶ Information



京都御苑、母と子の森（森の文庫付近） 写真：環境省

京都大学総長、山極壽一氏は世界的な霊長類学者であり、特にゴリラ研究の第一人者である。アフリカのジャングルに分け入り、ゴリラたちと間近に接することによってその社会進化や生態を解き明かしてきた。ご自宅は京都御苑の近くにあり、時々散策もされるという。人や生き物と自然の関係を鋭く見つめてきた山極総長の目に御苑の自然はどのように映るのだろうか。

## 生物多様性を支える

## 京都御苑

### 山極壽一

生物多様性という概念は、環境省が提案するように「いのちのつながり」と考えればわかりやすくなる。進化という長い時間をかけて生き物は多様な形を作ってきたし、それがさまざまな種に分かれて、多様な関係を営んでいる。その時間と空間的なつながりのなかに、私たち人間も入っているということだ。生物多様性は一九八〇年代に欧米から入ってきた言葉だが、日本には「いのちのつながり」や「ともいき」といった自然と共生することを尊ぶ気風が昔からあったのである。

京都はそれを実感しやすい場所である。平安時代から続く一三〇〇年の都であり、街のあちこちに人ともにも歩んできた他の生物が息づいている。昔の人がどうやって自然を眺めたかが書となり、工芸品や芸術、庭園や建築群となって残っている。お祭りや行事にも、自然への怖れや



畏敬の念が色濃く反映されている。現代の京都人の生き方の中に、代々受け継がれてきた、自然と共に生きる知恵や作法が感じられる。

私は、人間が精神的安定性を保つて暮らすには、人間の寿命を越えるものが必要だと思う。大木は人間をはるかに越える樹齢を持つし、神社やお寺もいくつもの世代の手によって継承されてきた。そこには人知を越える霊が宿る。また、川の流れて漂う魚たち、林に飛び交う数々の虫たち、樹冠に舞い降りる鳥たちも、個々の個体は人間より寿命が短いとは言え、代々ののちをつなぎ、変わらぬ姿を私たちの前に現してくれる悠久の存在である。こういったものが身近にあるおかげで、私たちは自分のいのちのつながりを実感でき、自分のはかない存在を大切に思うことができるのである。



寄り添うアオバズクのつがい

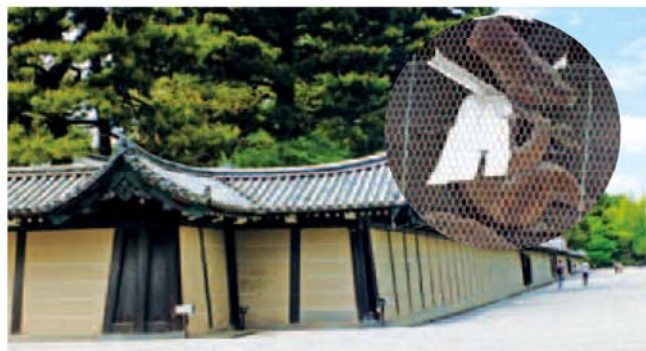
写真：西台律子

京都の自然は人の手が入った二次的自然である。里山と呼ばれる景観があちこちにあるし、そこは原生的な自然よりもむしろ生物多様性が高い。それは、里山がさまざまな生き物の通り道になっているからだ。四季折々に姿を変える里山に、それぞれ異なる食物を求めて虫や鳥や動物たちが集まってくる。人間も昔から里山の植物や動物を利用してきた。そして、人の手が入ることによって、里山はさらに多様な生物を迎え入れることになってきたのである。

京都御苑は、この京都の優しい二次的自然を代表する場所である。常緑樹と落葉樹が程よく混じり、四季それぞれに色を変える。心地よい湿り気を帯びた林床には多様な草花やきのこが顔を出す。虫や鳥の種類も多く、なかでもトンボやチョウが多。アオバズクが繁殖していること



ハナヅノツクバネウツギに吸蜜するクロアゲハ



京都御所猿ヶ辻、立烏帽子に御幣を担いだ木彫りの猿

でも知られる。この生物多様性の高さは、御苑がそれぞれの生物の暮らしを支える十分な広さを持っているからである。まさに、いのちのつながりが見事に表現されている場所なのだ。

京都御所の北東角の築地塀には大きな切込みが入っており、そこに災除けのニホンザルの彫刻が掛けられている。北東は鬼門に当たり、御所でも地震などの自然の災いに大きな畏敬の念を抱いていたのである。そこに、神の使いとされたサルを据えたところに、昔のサルと人々との関係を彷彿とさせる。その頃の時代感覚が、今の私たちに必要なものかもしれない。京都御苑を訪れて、いのちのつながりを感じてほしいと思う。

(京都大学総長)

## 自然観察のすすめ

# 「きのこ」を通して自然を観る

佐野修治

自然の中に身を置きゆっくりと周囲を見渡せば、頭上には鳥や蝉の鳴き声が聴こえ、樹木の緑が作りだす心地好い木陰に癒されます。そして、目線を足元に移すと青々と茂った草地にひっそりとたたずむ「きのこ」にも気付くことでしょう。

御苑の自然は、動物（消費者）、植物（生産者）、菌類（分解者・還元者）、生物の三界の関わりと命の循環を目の当たりに観ることが出来る生物の宝庫です。

「きのこは秋」と一般的には思われていますが、実は六月中旬〜七月中旬は秋本番に勝るとも劣らない「きのこシーズン」なのです。



チチアワタケ 滑りのある傘表皮と傘裏の黄色い管孔が特徴、胞子を放出中の成菌

梅雨入り前後からはイボテン

グタケ（疣天狗茸）や、ツルタケ（鶴茸）、フクロツルタケ（袋鶴茸）が芝生や草地の緑の中に点々と姿を現し、時には幼児の顔を隠すほどの大きな傘を広げ驚かされます。そして、珍菌チヤタマゴタケ（茶卵茸）が輪状に広がってフェアリーリング（妖精の輪）を描きます。同じ頃に傘の裏が管孔のクウジタケ（麴茸）や、ニガイグチ（苦猪口）の仲間も発生し、若いうちは傷つく白い乳液を出すチチアワタケ（乳泡茸）、傷つくと瞬時に紺色に変色するイロガワリ（色変り）も顔を出します。芝地にはムラサキナギナタタケ（紫長刀茸）が一面に広がり、草地にはカブトムシ様の匂いがする可愛いピンク色のニオイコベニタケ（匂い小紅茸）や、色とりどりのカワリハツ（変り



イボテングタケ 幼児期に親しんだ童話絵本の名脇役 子供の顔サイズ!



## 学生コラム

## 近衛邸跡の糸桜

同志社女子大学日本語日本文学3回生  
吉海ゼミ・Kyoto Gyoen girls 川添満里奈

毎年3月下旬から4月上旬にかけて、京都御苑は桜の名所となり多くの人で賑わいます。特に近衛邸跡の池のほとりの糸桜は「近衛の糸桜」として江戸時代から有名でした。この「糸桜」は枝垂桜の別称で、ソメイヨシノよりも早く小さな花を咲かせ春の訪れを楽しませてくれます。安政2年(1855年)には孝明天皇がこの桜をご覧になって、「昔より名には聞けども今日見ればむべ目かれせぬ糸桜かな」と詠まれたそうです。「目かれせぬ」とは目が離せないという意味です。この歌からも糸桜の美しさが伝わります。ただし近衛邸は、かつては同志社大学新町キャンパスの辺りにありました。その名残で現在そこは近衛殿表町といわれています。謡曲「西行桜」に「近衛殿の糸桜」と讃えられたり、近世初期に「春の雨に糸くりかけて庭の面は乱れあひたる花の色かな」と詠まれているのは、その旧邸(桜の御所)に植えられていた糸桜です。この二つの「近衛の糸桜」、きちんと区別する必要があります。



外国の方々との交流

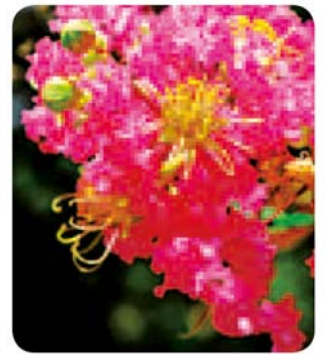
いろいろな人とも出会う。香港、台湾、タイ、マレーシア、韓国、米、カリブ、メキシコ、チリ、アルゼンチン、ブラジル、ポーランド、オランダ、スペイン、仏、伊、オーストリア、独、英、ニュージーランド、

ミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ。五〇〇六〇年前の京都・桂ではほとんどがニイニイゼミでアブラゼミが捕れたら嬉しく、クマゼミが捕れたら友達に自慢したものです。そんな話を九州出身の同年配の御苑の庭師さんに話したら、子供の頃九州ではクマゼミがほとんどだった。やはり温暖化が影響しているのか？そしてヒグラシが高い樹の上で鳴き始めて秋が近いことを教えてくれる。

三〇センチのポリ袋がいっぱいになる。糞は御所の西側ゾーンが殆どで東側では見かけない。モラルの欠けた飼いがいるのは残念だが、対策も少しかりとお願ひしたい。とはいえこれからは毎日散歩を楽しむつもりです。

また、出会いたくないものもある。ゴミと犬や猫の糞。出会った外国の方は異口同音に日本は安全でキレイですと褒めてくださる。だからこそ余計に御苑内を綺麗にしたい、ゴミ拾いをする。二時間程で二〇×

豪など世界中の国の人々と出会い交流できる。頼まれれば御苑内や市内を案内することも(もちろん無料)。



百日紅の花

また、黄色いラッパ型をした傘を持つアンズタケ(杏茸)や、小型のヒナアンズタケ(雛杏茸)も緑の草影に現れます。蠟細工のような弾力性を持つカレバキツネタケ(枯葉狐茸)や、一夜で我が身を溶かし黒インクのような液体となって胞子を拡散するヒトヨタケ(一夜茸)の仲間にも出会えます。

そして、冬虫夏草の一種ハナアブラゼミタケ(花油蟬茸)や、クモタケ(蜘蛛茸)も石垣の隙間などに発生し、「南方熊楠」の研究で有名な変形菌サビムラサキホコリ、ウツボホコリ、マメホコリなども目を凝らして観察すればきつと発見できるでしょう。

後左右、深く浅く：地中を探検してみよう！土の中には様々な微生物が生息し、アリやミミズ、樹木や草花の根とときのこの菌糸などが入り交じってきつと賑やかなことでしょう。

地上と同様に地下でも生物の三界の生き物たちが互いに関わり合い、広大なネットワークを張り巡らし複雑に繋がりがながら生活していることが解明されつつあります。

「野外自然観察者」としての喜びを身近に体感できる京都御苑で、人それぞれの愉快的感動のひと時をお楽しみください！

(京都自然観察学習会)



ベニタケの一種 紅色と白や黒、茶や黄色、緑に朱色と多様



カレバキツネタケ 幼菌と成菌が家族の様に仲良く寄り添っている



ニガイグチの一種 重量感のある肉厚の傘裏は穴状の管孔、種類の通り味は苦い



■イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

京都御所では事前申込不要の通年公開が実施されています。

**公開日**：通年、ただし月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12月28日～1月4日)、行事等の実施のため支障のある日は休み。

**公開時間**：4月～8月 9:00～17:00 (入場16:20まで)

**入場門**：清所門

**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

仙洞御所の参観拡充

事前申込による参観に加えて当日受付も行われています。

**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開

日本の歴史、文化を象徴する京都で海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。

**公開日**：詳細は迎賓館のホームページでご確認ください。

**参観料金**：大人1,000～1,500円 中高生500～700円

**お問合せ**：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2302 (自動音声案内)

京都御苑夏の自然教室

苑内のいろいろな生きものを幅広く観察する初心者向けの自然観察会です。

**日時**：平成29年7月23日(日) 9:30～12:00

**受付**：9:00～9:20

**集合**：乾御門

(京都御苑北西

地下鉄今出川

200m)

**講師**：京都自然観察学習会の先生方

**内容**：夏の御苑の植物、キノコ、昆虫や野鳥の生態を観察します。

**参加費**：100円(保険代)

**主催**：環境省京都御苑管理事務所

(一財)国民公園協会京都御苑

**持ち物**：筆記用具、雨天時の準備、野外活動

に適した服装でご参加ください。ルーペ、双眼鏡など観察用具があると便利です。



夏のトンボ池一般公開

普段は立入りを制限している「トンボ池」を公開します。自由に見学ができますので、散策の折にはお立ち寄りください。(雨天中止)

※捕虫網や三脚の持ち込みはご遠慮ください。

**日時**：平成29年8月6日(日)

9:30～12:00

**場所**：京都御苑内トンボ池

(富小路口北東へ徒歩5分)



**参加費**：無料

**主催**：環境省京都御苑管理事務所

☎075-211-6348

(一財)国民公園協会京都御苑

**その他**：野外活動に適した服装(長袖・長ズボン)でご参加下さい。

■苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。収納展示室では京都御苑の歴史や自然が学べます。

**開館時間**：9:00～16:30 (入場は16:00まで)

**休館日**：月曜日(祝日は開館)、年末年始

**アクセス**：間ノ町口すぐ(御苑南西角 地下鉄丸太町 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家の遺構で江戸時代後期に建てられた九條家別邸。2017年より通年公開をスタート!

**公開日**：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 参観料 100円(高校生以上)



拾翠亭とサルズベリ

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのおみやげものを揃えてお待ちしております。

**営業時間**：9:00～16:30

**中立売北休憩所**(御苑西側中立売御門北すぐ)

食堂、売店(京みやげ)。

**中立売南休憩所**(御苑西側中立売御門南すぐ)

軽食・喫茶、売店(京みやげ)。

※8月16日(水)五山送り火当日21:00まで延長営業。



中立売地区再整備の工事のお知らせ

中立売地区再整備の工事が6月より開始されます。このため南休憩所に隣接して仮設休憩所が設置され、北休憩所は取り壊しの上、新築工事が始まります。今後一年余りの間、御苑利用者の皆さま方には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

**富小路休憩所**(御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接) 軽食・喫茶、菓子等の販売。

駐車場

**料金**：乗用車500円 バス1,300円(最初の3時間)

**中立売御門西駐車場**(乗用車、バス)

入場 7:40～19:30 出場 24時間

**清和院御門東駐車場**(乗用車専用)

入・出場 8:40～20:00 (20:00以降閉鎖)

運動施設

**富小路テニスコート**(5面) 有料

**富小路広場**(6面) / **今出川広場**(3面) 有料

軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。

**申し込み**：国民公園協会京都御苑



アジサイ ナツツバキ ムクゲ サルスベリ



会員募集(2017年度)のお知らせ

2017年度(2017年1月～12月)の国民公園協会京都御苑会員を募集します。

■年会費

●普通会員……………1,000円以上

●賛助会員(会社・団体)

……………10,000円以上

■会員特典

1 京都御苑ニュースの送付

2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み・お問合せ先

(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

題字の上に「歴史と自然のストック」とのコピー。平安千年の歴史は言うまでもないが、明治の大内保存事業で生まれた御苑の森や林も年々厚みを増し、山極総長が語る「いのちのつながり」を支えている。(発行人 池田善一)

企画・発行／お問合せ先

一般財団法人国民公園協会 京都御苑

〒602-0881 京都市上京区京都御苑3

TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



京都府立総合環境センター